上記の如くデヨラウグモは兎に角十分なる環境（氣溫・濕度等）の中に於ては一生の間に八回の脫皮を重ねる事だけははつきりした。而して脫皮から次の脫皮までの日數は初めの中が少く次第に遠ざかつて行くのである。尙脫皮の時刻は夜明け方が一番多く，次に夜間も晝間も行はれ一定して居ない。併し後述の如き例外のある事も承知して置いていたゞき度い。因に脫皮期及び其の回數並びにほゞ一定して居る體の大きさ等を一覽表にして揭げて置く。（脚は第一步脚を以て代表）

尙本種の發生期は大體に於て上記の如く六月中・下旬であるが稀には七月下旬頃やうやく發生するが如きおくな仲間もある。然し本種は環境や食餌に制限される影響が非常に大きいので產卵期は發生の早晩に拘らず，ほゞ一定して十月下旬である。故にこれ等おくのものは九月も半ば過ぎて朝夕氣溫のめつきり降下する頃には成長が停止して，脫皮を八回まで重ね得ず，七回或は八回目の直前にて成熟してしまふものである。從つて體長も其れに準じて小形のまゝで母體となるのである。かゝる例外はクモが環境によつて支配される面の非常に多き事を物語る，興味深い現象である。

擱筆するに當り種々御指導御配慮を賜つた植村利夫先生に深謝致します。

(15. 11. 23 記)

Ischyropsalis abei Sato et Suzuki の一畸形

三好保德

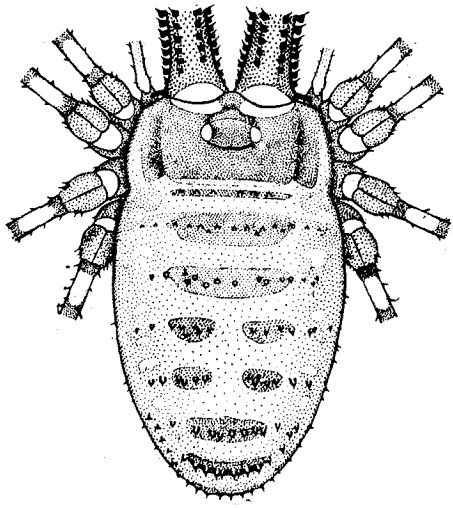
（愛媛縣立松山高等女學校）

Miyosi, Y. —— Über eine Missbildung von *Ischyropsalis abei* Sato et Suzuki

本種は廣島文理科大學佐藤井岐雄先生及び鈴木正將氏により1939年初めて記載された[2]珍稀なる種である。原記載は1931年10月山口縣岩國市城山公園の小丘

陵地の朽木の下で廣島文理科大學阿部余四男教授の採集になる雌によつてなされたものである。その後原記載者達は九州英彦山より（1939年8月）多くの雌雄を，四國石鎚山より（1939年10月）雌をそれぞれ採集し，しかして原記載が雌によつてなされたるに對し，鈴木正將氏は上記英彦山の雄によりその詳細なる形態學的研究を報告された。[4] 然らば現在迄に報告された本種の產地は岩國，英彦山（1200m），石鎚山（1981m）の三ケ所となる。

筆者は1940年9月15日愛媛縣喜多郡出石山（820m）にメクラグモの採集を行つた。本山頂には金山出石寺と稱する古寺あり，周圍一帶はスギの美事なる大木（中等大の伐採されてゐたものにて年輪205を數へたり）多く，樹下はヲタカラカウ（開花中），モミヂガサ（開花中），イラクサ，ハガクレツリフネ等の群落及び自然に落下堆積せる杉葉によつて被はれてゐた。山頂東南側に於て此のスギ林中に分け入つて行くと殆ど總てのスギの樹皮を數十匹の *Nelima genufusca* (Karsch) が徘徊してゐるのを發見した，そしてそれ等は多く地上2mの間であつて，生殖時期らしく交尾こそしてゐなかつたが，それらしい雌雄の群であつた。暫時觀察の後，とあるスギの基部の杉葉の堆積腐敗せるを無造作にはね除けた時，そこに影の如く動く極めて小形黑色のメクラグモ様の動物を發見した，驚き更に注意して觀ればそこに同様の動物が三匹ゐたのである。體長に比して相當に長くしかも纖細な步脚を有するこの動物がかゝる物體の下に生活してゐることに先づ疑問をもつたが，以前モグラの地下道であつたかの如き空間と結晶片岩の拳大の礫が多く，相當の運動領域のあることがそれに或程度の解決をあたへてくれた。尙これは全くその後の事であるが約一ケ月間飼育して觀た結果では瞬間的動作は豫想以上に速く，夜間は地表を徘徊し晝間はかゝる物の下に潛んでゐる様である。さて珍動物の發見に緊張し徐にその一匹を捕へ管瓶の中に投入した時，筆者は直ちにその長大特色ある鋏角に氣づき，同時にそれと全く同様な動物が既に圖解報告されてあることを想ひ起した。大いに勢を得た筆者は更にその附近を丹念に搜索したが遂に五匹（雌一匹，雄四匹）を得たのみであつた。その一匹の雌がこゝに圖示せるものであつて，これを今のところ *Ischyropsalis abei* の一畸形として報告することにしたい，何故なれば筆者は9月22日出石山に再び本種の採集を行ひ果して本山のものが總てこの型か否かを調査したのであつたが，その時得たる十匹（雌三匹，雄七匹）中の雌は皆原記載に圖示せられたる如き形態のものであつたからである。尙この畸形の雌



第　1　圖

Ischyropsalis abei Sato et Suzuki

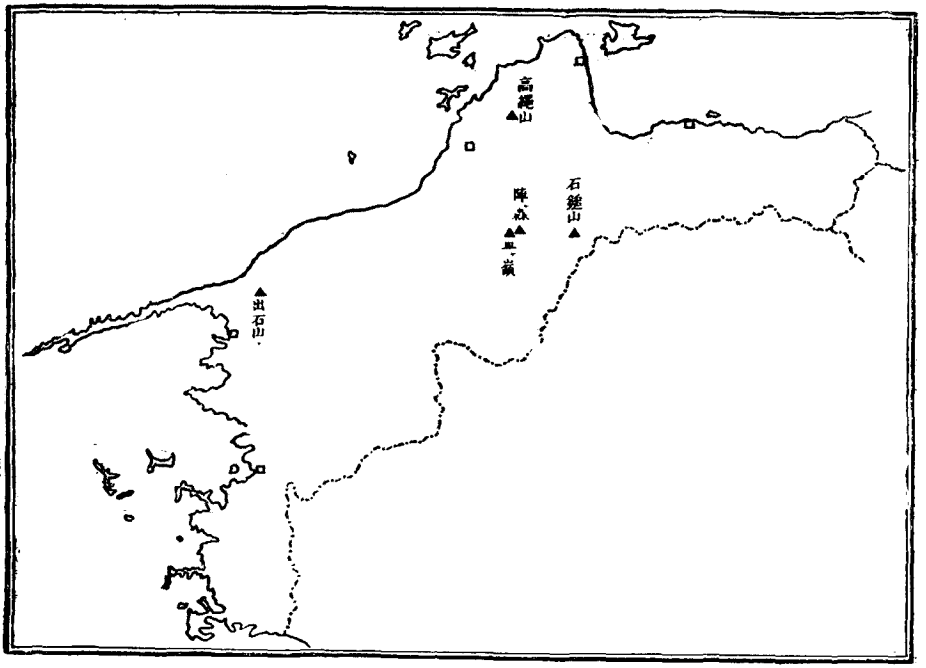
の畸形♀（三好原圖）

は體長 2.9 mm である。

筆者はこの二度目の採集を極めて有意義であつたと思つてゐる。しかして此の個體を畸形となす主なる理由は1腹部背板の各々が有する長楕圓形キチン板中前方より第三第四のものが左右二基に分離してゐること2且つその二基の中間には何等キチン板中に見る如き顆粒狀棘を有しない點である。この中間に顆粒狀棘を有しない點はたしかにこれが畸形的であることを物語つてゐる様である。原記載に圖示せられしものゝこの部は前後の他のキチン板と同様分離してはゐない。尙原記載よりこの部に關するところを引用すれば,,

…… Das zweite Thorakalsegment und die Tergite 1—8 des Abdomens sind mit einer Querreihe relativ unregelmässig stehender Höckerchen besetzt. Jederseits dieser Tergite sind auch die weichhäutigen Teile mit ungleich grossen Reihen von Höckerchen bestreut. Die übrigen weichhäutigen Teile des Rückens und des Abdomens sind kahl. “ „ Die Farbe der Dorsalseite des Abdomens ist schmutzigbraun bis rostgelb. Das zweite Thorakalsegment und die Tergite 1—8 sind rostfarben dunkelbraun.” の如くである。

その後筆者は同年9月29日高縄山（986.4m）の頂に近きスギ林の腐葉の下にて，9月29日皿ケ嶺（1271m）に於て切り落したるヒノキ腐葉の下にて，更に同日陣ケ森（1210m）頂上朽木の下にて，それぞれ雌七匹，雄一匹，雄一匹の本種を得た。よつて愛媛縣下に於ける本種の現在に於ける分布は次に示す如くであるが，今後更に多くの産地が明になり相當廣汎なる分布をなすものと豫想される。



第　2　圖

愛媛縣下に於ける *Ischyropsalis abei* の分布（三好原圖）

參　考　文　獻

1. Roewer, C. Fr., 1923. Die Weberknechte der Erde. Jena
2. Sato, I. & Suzuki, S., 1939. Eine merkwürdige Ischyropsaliden Art aus Japan. Zool. Anz., 126.
3. 鈴木正將, 1939. 本邦産閉氣門類 *Ischyropsalis* に就いて. Zool. Mag., Tokyo, 51.
4. ——— ———, 1940. Über das Vorkommen des Männchens von *Ischyropsalis abei* Sato et Suzuki (Opiliones) und seine weitere Verbreitung in Japan. Jour. Sci. Hirosima Univ., Ser. B. Div. 1, Vol. 7, Art. 11.